

アベマキ材の活用、追っかけてみました！

～ 近畿中国森林管理局 若手職員からの情報発信 ～

近畿中国森林管理局では、里山広葉樹材の需要拡大を目指し、若手職員からなる「里山ワーキンググループ」を立ち上げています。令和3年度のメンバーは、里山広葉樹の丸太がどのように活用されているのか、あまり知らないことに気づきました。そこで、令和3年の初市（岡山県新見市）において、中国地方の企業様が購入されたアベマキの丸太を追跡してみました！加工しづらくなかなか製材利用されていないアベマキを活用したほんの一例ですが、皆様にご覧いただけると幸いです。



原木購入



丸太製材



乾燥



製材・加工



加工・組立

田室名保美さんの製品アイデアをもとに、型を設計しています！

(※末口26cm、30cm 材長3m)
製材・加工のスペシャリスト



田室木材(株)
田室 俊治さん

地域の里山の木を喜ぶ消費者は多いんですよ。新見の市には色が綺麗な木を狙って参加しました。材木屋さんや職人さんの協力あってこそ、良い商品ができます。業界全体で地域の材を有効利用できるような方向性で取り組んでいきたいですね。

新製品のアイデアマン



たむろ木材
カンパニー(株)
田室 名保美さん

アベマキは新見の市以外でも買ったことがありますよ。製材利用できない樹種とされている印象があるけど、柂挽きしたら全然使えます。節のある材でも、加工すれば綺麗になるし個性になって面白い。多少の割れがあっても、接着剤を使えば机などにも問題なく利用できます。

木材をあやつるデザイナー



(株)IPM
伊藤 健一さん

アベマキと聞いて、加工が難しいという印象は特になかったよ。重い木なので重厚感が出るし、色や木目が綺麗で見た目が良いよね。木工は難しさもあるけど、設計図どおり思ったように仕上がっていくと楽しい。一発勝負という面白さもあるね。



完成！

若手職員の思い

アベマキの丸太が製品になるまでを追跡してみて、「アベマキだから、曲がり材だから、製材利用するには向かないだろう」という考えが変わりました。また、川下側のニーズや思いを川上・川中の方に知ってもらうことも、里山広葉樹材の需要拡大につながる大切な情報発信であると感じています。